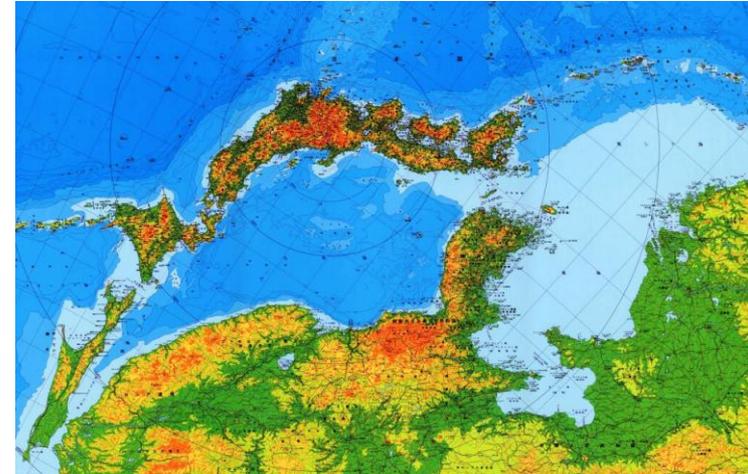


11 Mar. 2011@ Noyori Conference Hall, Nagoya University

The First Global Conference of the International Partnership for the Satoyama Initiative

“Working together for societies in harmony with nature: The first steps”

## From Subglobal Assessment of Satoyama (JSSA) to the Satoyama Initiative: the Role of Regional Higher Education Institutes in Creating Local and Global Paradigm Shifts



Koji Nakamura and Setsuko Nakayama  
The Satoyama Satoumi Project, Kanazawa University

# Kanazawa University

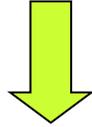


- Originated in 1862
- Newly established in 1949
- New system since 2008
  - 3 Colleges and 16 Schools
  - 5 Graduate Schools with 8 Ms course and 3 Dc courses

◇ No. of teaching staffs 1012

◇ No. of students Bc 8007, Ms 1336, Dc 933

Millennium  
Ecosystem  
Assessment  
(MA)



Japan *Satoyama Satoumi*  
Assessment  
(JSSA)

Key words

Ecosystem services

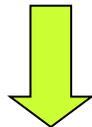
Assessment

Additional information value

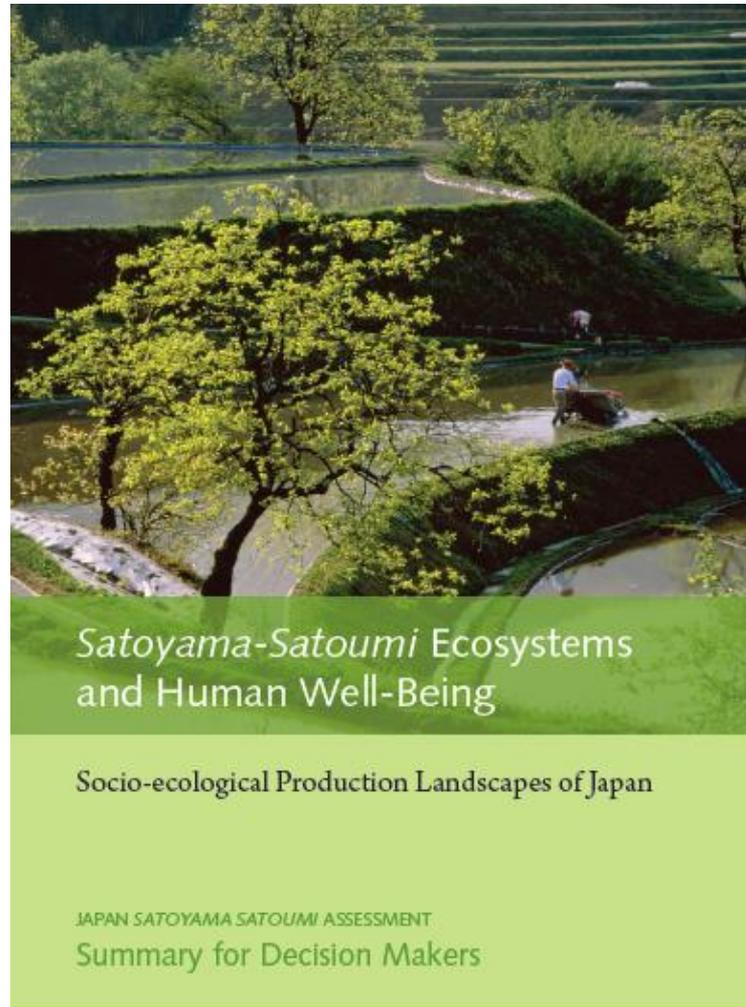
“Users” = stakeholder

International definition of Satoyama

Applying the “Satoyama” ways  
in sustainable resource use

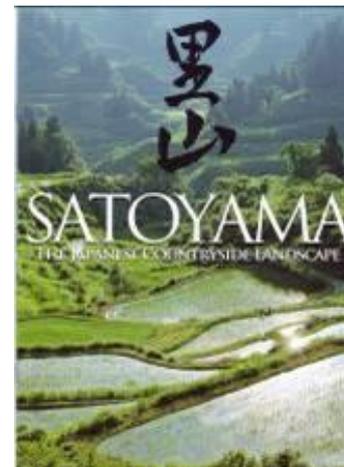
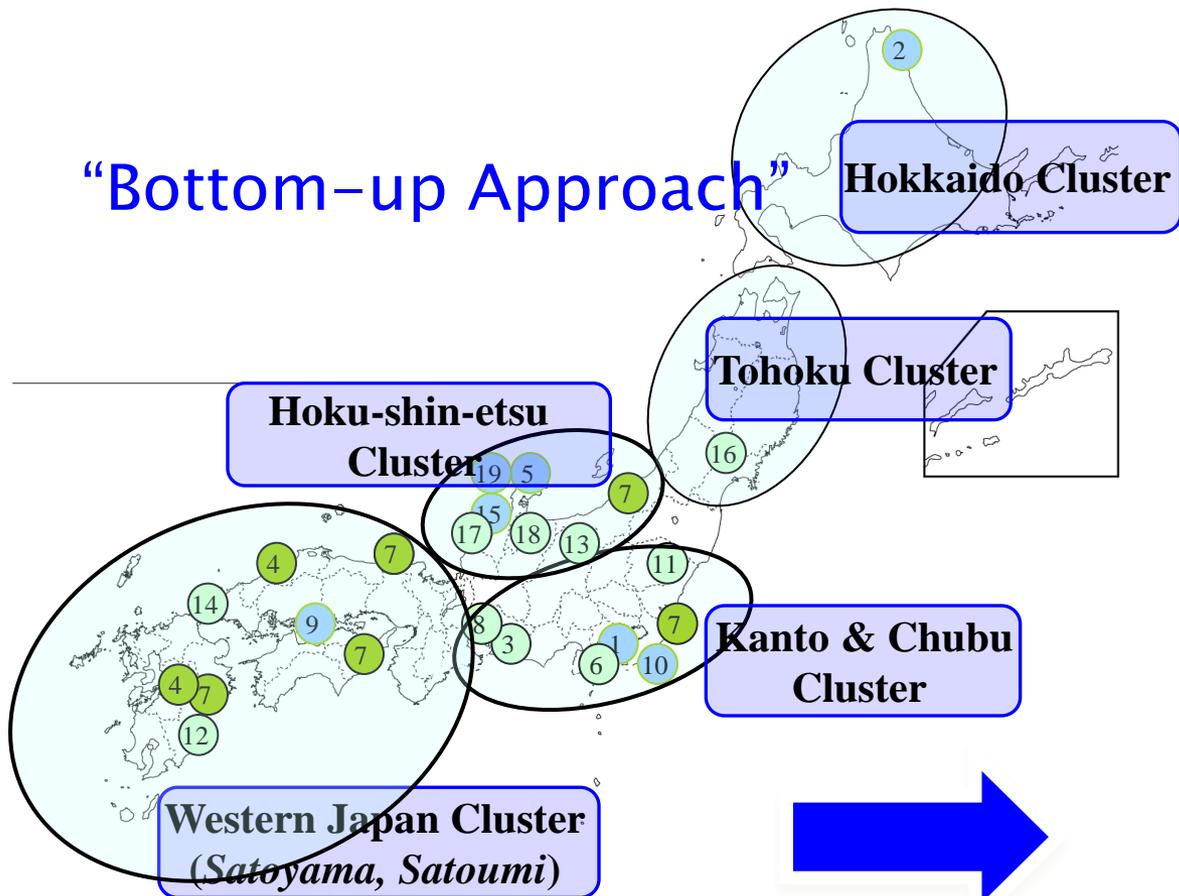


**SATOYAMA Initiative**  
(Ministry of Environment, Japan)



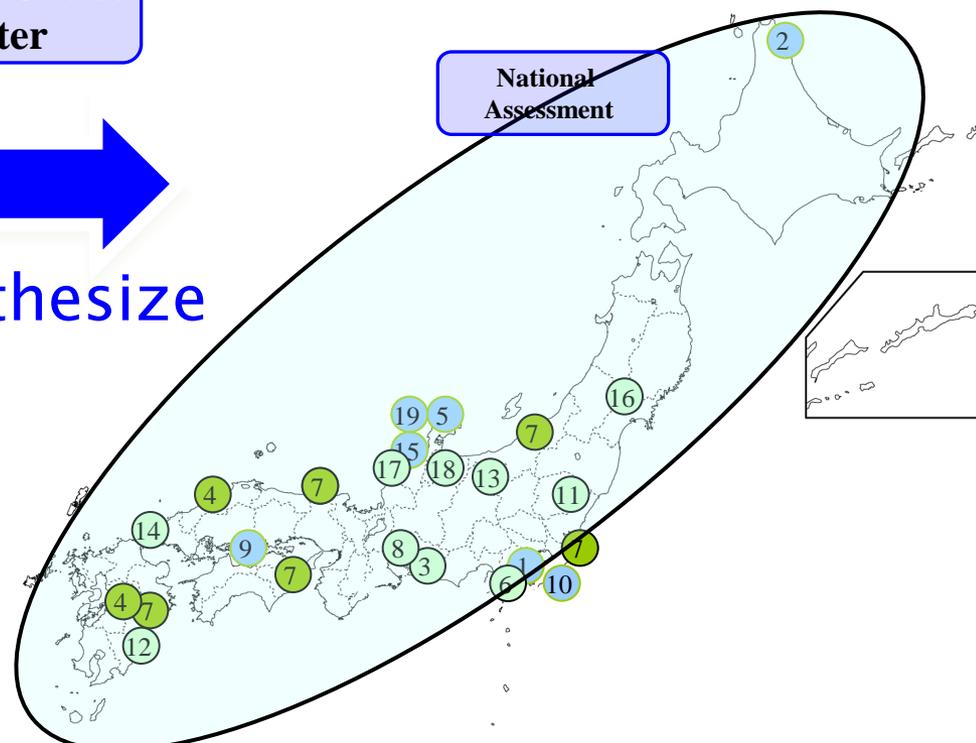
# 日本の社会生態学的生産ランドスケープ Socio-ecological Production Landscapes of Japan

# “Bottom-up Approach”



「国際SATOYAMAイニシャチブ」  
(環境省、国連大学等)

**Synthesize**



# Ishikawa Prefecture is rich in cultural and biological diversity



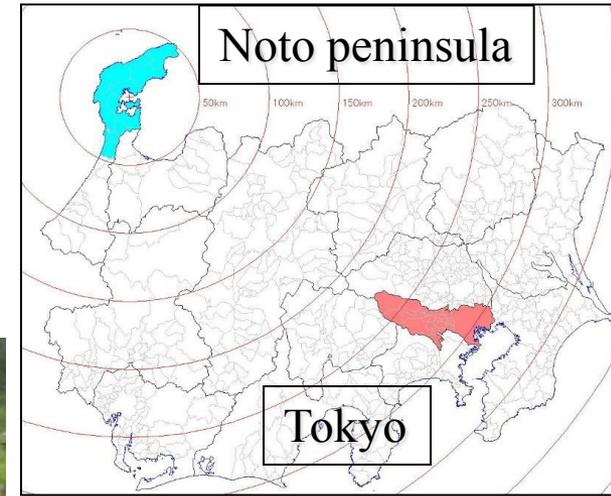
Satoyama and Satoumi ecosystem services provide a range of benefits for human well-being

# 能登の現状: 過疎・高齢化

**Serious conditions in Noto:**  
Depopulation and aged population

面積 : 東京都とほぼ同じ Area : Same  
人口 : 東京都 Tokyo Population (1200万人)  
能登半島 Noto (23万人)  
⇒2030年には10万人

里山里海の荒廃



**Marginal villages** 限界集落



**Collapses of villages** 集落崩壊



**生態系の崩壊, 伝統文化の断絶**

**Collapse of ecosystems and local culture**

可能性と「強み」 Rich local resources

- 豊かな里山里海
- 伝統産業・食品加工技術
- トキの舞う自然環境への可能性

「絶景」と賞賛した総理が眺望した棚田は4 ha  
しかし・・・ 周囲10 haは休耕・放棄田



# Alternation of the relationship between wild animals and human being in Satoyama



“Black bear panic” in 2004

In abandoned Satoyama, trees grow taller and denser, and wild animals inhabited in the remote mountain invade to human areas.

Satoyama must be kept in a good condition by agriculture, forestry and conservation activities.



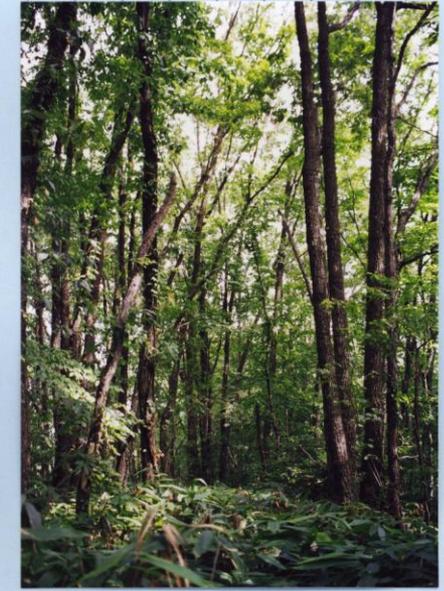
## Abandoned paddy fields

放置され荒廃しつつある角間の里山には適切な管理・保全が必要である。角間の谷間はかつて水田であったが、いまではヨシの侵入による森林化が急速に進んでいる。ヨシを除去して水田を復元すればホトトギス、スタカ、ゲンゴロウも復活するだろう。



モウソウ竹が拡大してコナラ、アベマキを枯らしつつある。

## Expansion of bamboo



林床を埋めるチマキザサ。

## Sasa covers forest floors

# Sugi plantations with and without management



Managed



Not-Managed

# 金沢大学「角間の里山自然学校」, 1999~



金沢大学創立五十周年記念館  
「角間の里」

- ・ 角間キャンパスの豊かな自然
- ・ 自然・環境教育・生涯学習
- ・ 里山メイトの自主活動



竹林整備



棚田復元



保育園・小学校・養護学校の里山利用



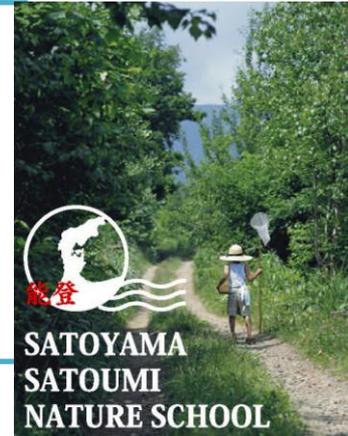
脱穀と餅つき  
10

# How can we conserve Satoyama biodiversity and revitalize the community in the Noto Peninsula?

## –Regional Cooperation Projects of Kanazawa University–

### Raising public awareness and community participation in Satoyama conservation

1. Create public awareness on the importance and value of Satoyama biodiversity at all levels in schools and communities.
2. Promote community-based conservation activities in Satoyama.



### ➔ Noto Satoyama- Satoumi Nature School

### Capacity building for young people settlement

3. Provide information, knowledge, skills and training for young, aspiring farmers.
4. Create the business opportunity through Satoyama conservation

### ➔ Noto Satoyama Meister Training Program

### ➔ Noto Satoyama Satoumi Activity Project

### ➔ Noto Satoyama Satoumi Ikimono Meister Project

# Noto Satoyama- Satoumi Nature School

## Mitsui Funded Project

(Mitsui & Co. Ltd., Environment Fund)

Oct. 2006~

## The Open Research Center of Satoyama study

- Education and research
- Regional cooperation with volunteers, local governments, etc.
- Center of Satoyama networking



**Resident researcher**



**Kanazawa  
University**

**Advisers**

**Satoyama resident  
researchers**

**Local governments,  
farmers, foresters,  
fishermen, etc.**

# Noto Satoyama Meister Training Program

2 year program  
60 graduates  
after 5-yr project

## MEXT (Ministry of Education) Funded Project

(Special Coordination Funds for Promoting Science and Technology)

Oct. 2007~

### Capacity building of **Young Leaders**

**Targets:**  
Young boy and girls in urban areas  
Young staffs of local city and town offices



中村浩二教授 (金沢大学)  
「能登里山マイスター」養成プログラムの代表研究者



北風八紘さん (珠洲市)  
マイスター支援連絡会代表

学舎長      地域連携担当      地元のベテラン指導員



川島 平一 (農学博士)      宇野 又天 (企画運営)      沢野 昭郎 (農業)      石ト 昭雄 (林業)      出村 龍彦 (水産業)

能登学舎常駐教員・スタッフ



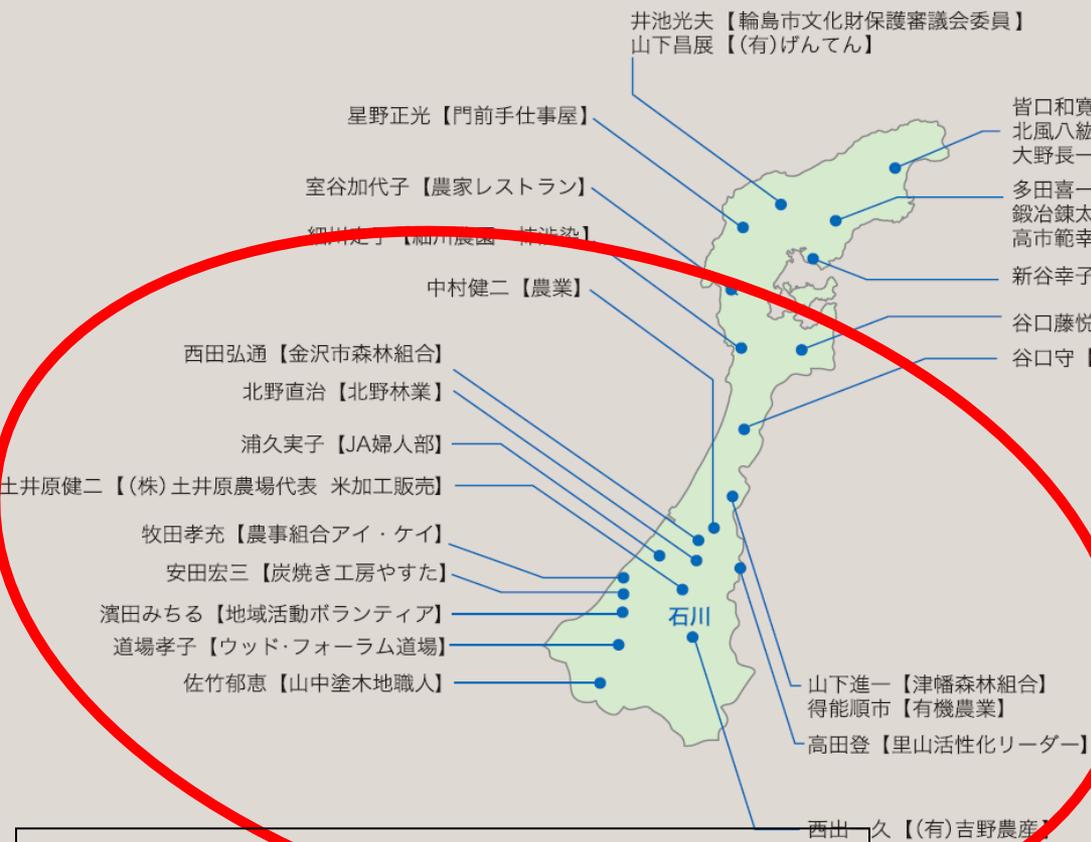
小路 晋作 (理学博士)      中山 節子 (人類学・地域研究)      小柴有理江 (地域政策学博士)      宇都宮大輔 (理学博士)      伊藤 浩二 (農学博士)

**Staffs**

# 支援ネットワーク

## Supporters' Networks

### 里山駐村研究員



**Satoyama professional leaders**

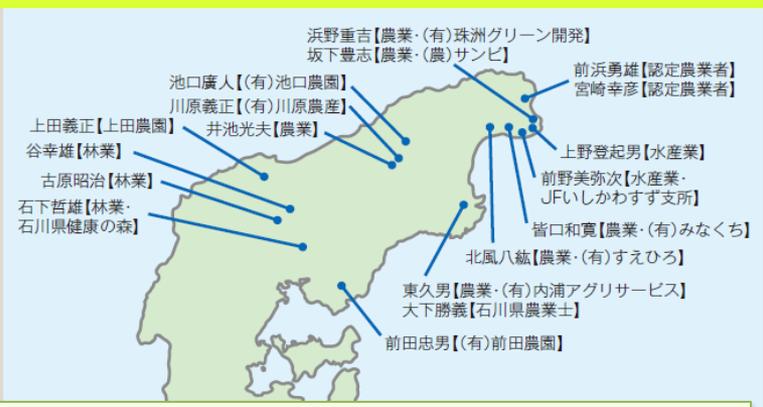
### 里山研究員

- 山本茂行【富山ファミリーパーク】
- 吉田洋【(株)森俊偉+ARCO建築・計画事務所】
- 草光紀子【(株)環境公害研究センター】
- 石原一彦【角間の里山メイト】
- 美馬秀夫【石川県環境安全部自然保護課】
- 松井正人【金沢市役所農林部農林基盤整備課】
- 市村鉄治【金沢杜の里まちづくり委員会】
- 細川律子【浜茄子文庫主宰・宮沢賢治を読む会】

### 里山客員調査員

- 野手有二【(株)シグマデザイン建築設計事務所】
- 徳本修一【(株)総合園芸】
- 石森良洋【(株)石森木工】

### 里山マイスター支援ネットワーク



**Network of Satoyama Meister supporters**

Country focused training  
course on promotion of  
SATOYAMA Initiatives:  
Biodiversity  
conservation and rural  
development through the  
sustainable management  
of natural resources

Organized by JICA Hkuriku,  
Kanazawa Universitys, UNU-  
IAS

November, 2010

里山シンポジウム  
「世界は里山里海に何を学ぶのか」

JICAでは2010年11月、途上国からの14名の研修生を対象に、持続可能な自然資源管理による生物多様性保全と地域振興をテーマとした研修を実施しています。

研修の一環として開催される本シンポジウムでは、国内および海外の二次的自然環境（里山里海）の現状について情報を提供し、生物多様性保全と持続可能な自然資源の利用のあり方について、SATOYAMAイニシアティブで掲げられている自然資源の循環利用、地域社会・経済への貢献、様々な関係者の参加と協力による取り組みという視点から、途上国研修員とシンポジウム参加者との間で意見交換を行います。



平成22年11月27日(土)

13:30~16:30

会場: 石川県健康の森総合交流センター  
多目的ホール

主催: JICA北陸

協力: 環境省, 石川県, 金沢大学  
国連大学高等研究所

## 講演者・コーディネーター・パネリスト&コメンテーター

### 名執 芳博 (Yoshihiro Natori)



国連大学高等研究所上席客員研究員。1975年環境庁入庁。環境省野生生物課長を務めた後、2006年7より国連大学高等研究所にて持続可能な開発のため

の教育プログラム及びSATOYAMAイニシアティブを担当。2010年9月より(財)長尾自然環境財団勤務。

**講演概要:** 里山イニシアティブという取り組みと、その目的、行動指針、視点などについて、また里山イニシアティブを支援するしくみとしての国際パートナーシップについてご講演頂く。

### 中村 浩二 (Koji Nakamura)



金沢大学社会貢献担当学長補佐。同大環日本海域環境研究センター長。農学博士。主な研究課題に里山生態系の動態研究・保全・活用がある。能登里山マスター養成プログラム、

里山里海アクティビティの創出、里山里海再生学の構築の研究代表。

**講演概要:** 2006年から開始され、本年10月のCOP10で発表された「日本の里山・里海評価」(Japan Satoyama Satoumi Assessment: JSSA)の成果とそれに基づく提案についてご講演頂く。



### 大野 長一郎 (Choichiro Ohno)

大野炭炭工場工場長。1999年より炭焼きを始める。2004年よりお茶炭のブランド化、産地化を目指しその材料となるクヌギの植林を始め、2008年には植林の体験交流イベント「お茶炭の森づくり運動」を開催。炭焼きを通して、環境問題や地域の活性化に取り組む。



### 吉田 翔 (Sho Yoshida)

石川県立七尾高等学校を卒業後、ミラノのデザイン学校 Scuola Politecnica di Design SPDにて学ぶ。2008年、coloborsaのデザイナーとしてコレクションを発表。2009年、(株)奥能登塩田村入社。しおサイダー企画に携わり一年間で25万本の販売を達成。

## 研修員



### 宇野 文夫 (Fumio Uno) コーディネーター

金沢大学客員教授・地域連携コーディネーター。新聞記者、北陸朝日放送報道制作局長を経て2005年より現職。能登里山マスター養成プログラム企画運営担当。著書に『能登船倉の海びと』(1986、北國新聞社、執筆分担)、『参加と協働のデザイン』(2009、学芸出版社、共著)、『里山復権～能登からの発信』(2010、創森社、共著)。



### 奥山 正樹 (Masaki Okuyama)

環境省自然環境局自然環境計画課課長補佐。1990年環境庁入省。鳥獣保護業務室、自然環境調査室、自然環境局総務課などに勤務。霧島屋久国立公園屋久島管理官事務所、北海道地方環境事務所(札幌)などで現地勤務。2009年7月から現職。



### 野崎 英吉 (Eikichi Nozaki)

石川県環境部自然保護課担当課長。1983年より石川県職員。白山自然保護センターにて、大型野生動物(クマ、サルなど)の保護管理事業に従事。また、自然保護課にて、県特定鳥獣保護管理計画サル計画、同クマ計画、イノシシ計画などの策定に従事。



### 三次 啓都 (Hiroto Mitsugi)

国際協力機構(JICA)地球環境部次長。専門は村落林業、自然資源管理、住民参加。近年は森林・生物多様性保全と貧困対策、地方分権下の森林行政、企業とのパートナーシップ構築、途上国からの人の交流を通じた国内の地域振興に関わる。



### 戸田 光彦 (Mitsuhiro Toda)

(財)自然環境研究センター首席研究員。理学修士。専門は動物生態学、爬虫両生類学。職場では里地里山や外来生物対策の関連業務などを担当。共著書に『日本の外来生物』(平凡社)、『これからの両棲類学』(裳華房)、『野生動物保護の事典』(朝倉書店)などがある。



### クドウグウ・ジャスティン・ゾンゴ Koudougou Justin Zongo

環境居住地区地域管理計画フォローアップ評価部<ブルキナファソ>



### セバスチャン・レストレポ・カジュ Sebastian Restrepo Calle

アレクサンダー・フォン・フンボルト生物資源研究所<コロンビア>



### キダネ・ビズネ・ケベデ Kindane Bizuneh Kebede

オロミヤ森林野生生物社プロジェクトコーディネーター<エチオピア>



### イスタント Istanto

林業省、グヌン・ハリムン・サラック国立公園長<インドネシア>



### アイジャン・ルスメンドゥエーパー Aizhan Rysmendeeva

環境保護森林局専門家<キルギス>



### ジュトム・オンコーシン Jutom Ongkosing

サバ農業局研究課、研究員<マレーシア>



### カルロス・ゴメス・マルテネス Carlos Alberto Gomez Martinez

環境庁、森林部、森林計画調整員<パナマ>



### ソツティアル・ヨ ア Sothearith Yourk

環境省国際会議・生物多様性部 部上級職員<カンボジア>



### ラウラ・リベラ・キンタンニャ Laura Rivera Quintanilla

トルトゥゲロ保全地区自然資源管理局マネージャー<コスタリカ>



### ジャイシャンカ Jaishankar

チェンナイ、ゴア、国立生物多様性局、技術支援員<インド>



### ユザック・マンゲタン Mangetan Yussak

林業省森林保護自然保全総局、職員<インドネシア>



### ピーター・ムクワパティラ Peter Mkwapatira

ブランタイヤ森林省、林業普及局、森林職員補佐<マラウイ>



### クルスチェフ・スレスタ Khruschev Shrestha

森林土壌保全省、土壌保全流域管理部職員<ネパール>



### トン・タット・ミン Ton That Minh

ビズプ・ヌイバ国立公園、計画・国際協力課職員<ヴェトナム>

# トキ再生とビジネス創出・地域活性化

Revival of ibis, creation of new agri-business and reactivation and revitalization of satoyama areas with a focus on sustainable management and conservation



Business chances for younger generation in Noto

# 里山里海アクティビティ

## 長野大学環境ツーリズム学部 里山里海実習

実施報告書

2010年6月25日（金）～27日（日）

### 里山里海と地域づくりをテーマに、長野大生30人

金沢大学が能登で実施するプロジェクト「里山里海アクティビティ」がコーディネートをした、長野大学環境ツーリズム学部の里山里海実習が、6月25日（金）より2泊3日の日程で行われました。長野大学独自の認定資格「森の恵みクリエイター」コースの受講生と教員、あわせて30名が参加。日ごろは長野大学の森を舞台に「森林の新しい価値を生み出し地域の発展にどうかすか」を学んでいる学生たちが、能登の里山里海にかかわる地域づくりの現場を訪ね、実践者から学びました。



### 実習の目的

1. 里山里海の保全活動や地域づくり活動の見学、参加、交流  
現場実践者の生の声にふれる
2. 里山・里海をいかした伝統生業と、新しい事業活動について学ぶ
3. 環境教育やエコツーリズムに関連した活動見学、実習

## 1日目

### 塩づくりと炭焼きを通して、里海と里山のつながりを学ぶ

#### 1日目 プログラム

#### ◆里山里海の伝統的生業「製塩」と新名物「塩サイダー」

揚げ浜式製塩について塩田と資料館を見学し、里山と里海が隣接している能登ならではの、山と海のつながりを学びました。また、新たな特産品塩サイダーの開発話や、地域活性に対する吉田さんの想いをお聞きました。

講師：奥能登塩田村 吉田 翔 氏

#### ◆炭焼きを生業とすること、地域とのかかわり

里山マイスター養成プログラムの卒業生・大野氏は、窯4基で大規模に炭焼きに取り組む若手炭焼き職人。大野さんの夢「お茶炭の産地化」等について聞き、工場を見学しました。その後、お茶炭の森で草刈の作業をお手伝いしました。

講師：大野製炭工場代表 大野長一郎 氏

#### ◆地域活性に向けた里山里海の活かし方



大野製炭工場。大野さんの夢にたいへん刺激をうけました → そして夢のお手伝い、一昨年前植林したクスギ林の草刈り ↓



塩田村で、吉田さんの塩サイダー開発の話に参加者は興味深々でした。



Satoyama Satoumi Activity Project for inviting more than 1000 young peoples to Noto



## The Noto model: Conservation of biodiversity for reavitalization of rural communities

- Overcome depopulation and aging community
- Harmony with nature, sustainable resource use

**Thanks**